

令和 7 年 1 月 10 日 開 会

令和 6 年度第10回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和6年度 第10回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和7年1月10日（金）	教 育 長 坂 元 裕 人	教育総務課長 草 野 浩 一
午後2時 ↓	教育委員 明 石 浩 久	学校教育課長 川 崎 史 明
午後3時45分	教育委員 葛 迫 幸 平	社会教育課長 大 山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和6年度第10回教育委員会定例会を開会した。

2 令和6年度第9回定例会会議録の承認について

令和6年度第9回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議 事

なし

4 その他

- (1) 令和6年第4回垂水市議会定例会における一般質問等（教育委員会関係分）について（報告）
- (2) 第9回定例教育委員会での委員からの質問について（回答）
- (3) 総合教育会議の開催について（案内）

5 動議の討論等

6 委員並びに教育長及び課長報告

7 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
なし			

議 事 内 容 等

3 議 事	なし
4 その他	令和6年第4回垂水市議会定例会における一般質問等（教育委員会関係分）について （資料に基づき説明）
教育総務課長	
教育長	説明されたこと以外で、垂水高校の令和7年度の創立100周年も含めて、垂水高校振興対策の説明をお願いします。
教育総務課長	直近で言いますと、1月24日金曜日、昨年、フランスのパリで行われた第73回プロスペール・モンタニエ国際コンクールに日本代表として出場し、準優勝された本市出身である、山形屋「レストラン・ル・ドーム」の鹿島匡人シェフと、生活デザイン科の生徒が調理実習授業を行うということで連絡を受けております。 このことを踏まえて、創立100周年となる令和7年度においても引き続き鹿島シェフを授業講師にお招きできればとの考えがあるようです。 また、今申しましたとおり、7年度は創立100周年の年度となることからすべて学校行事に冠がつくことになるわけですが、特色ある行事としては、5月28日の高校創立記念日に記念講演会が、10月25日の土曜日には、記念式典を開催する予定であるとお聞きしております。 現時点で決定している式典での内容ですが、本市出身である東進ハイスクールを運営されている永瀬昭幸株式会社ナガセ社長と、その東進ハイスクールの講師でもあり、テレビ等おなじみの林修先生が、この記念式典で記念講演をされるようです。詳細については、まだ決まっておりませんので、決まり次第、教育委員の皆様にはお知らせしたいと思います。
教育長	せっかくの創立100周年、そして素晴らしい中身の企画をされておりますので、これを広報・周知する手段が大事なのかなと考えております。 例えば、スケジュール化したものを全戸配布するとか、あるいは今言われた目玉事業について懸垂幕・横断幕をつくるとか、寄付も含めて大々的に行うべきだと思っています。 いよいよ動き出します。寄付も含めて、どうやって創立100周年記念事業を市民の皆様にも周知するかが大事になってきますので、垂水高校と連携して進めていければなと思っています。 林修さんはインパクトがありますよね。誰に話を聞かせたいですか。

学校教育課長	私は、どのような話をされるか分かりませんが、お父さん、お母さん方にぜひ聞いていただければなと思っています。というのは、私も小学校の教員をしていて、学校で主に勉強はするのですけれども、同時に、家庭で、学校で、学んだことをどうやって復讐をしていったり、あるいは興味を膨らませたりするのかによって、子供たちの可能性というのは、ものすごく変わってくると思っています。例えば、子供がやっているところを見て、「あっ、よく頑張っているね」「こうなっているね」「ちゃんと話を聞いてきたんだね」と言われれば、次の日子供は学校に行って、きっちと授業を受けるだろうし、あるいは内容についても「このことはね、もしかしてこの前、新聞に載っていた記事と関係があるよね」と関係づけてくれればもっともっと調べていって学ぶ楽しさを味わってくれると思います。 そういうような話が林先生の話の中にでてくるとすれば、これからの垂水の保護者の子供たちの考えが、ちょっと変わってくるのかなと楽しみにしています。
教育長	今の視点、いわゆる子供の学びへの保護者の関わり方ですが、そうすることによって子供たちが教育へ関心を高めたり、もっと勉強をしなければと意欲を高めたり、というようなところで、非常に大事なことです。
明石委員	私は、先生方に聞かせたいと考えております。
教育長	私は、一番聞かせたいのはきっと子供たちなのだろうなと思っています。インパクトのある方が出てきて、学ぶことの楽しさ、喜びみたいなものは一番純粋に受け止めて「よし、頑張ろう！」という気持ちになると思ったりします。 ですので、何かこれは狭いところで、例えば、垂水高校生のみを対象とするのではなくて、その下の中学生を入れたり、もし可能であったら小学生の高学年を入れたりして、先ほどの先生方や保護者も含めて、それぐらい幅広く聴かせてあげたいなと思います。 誰に聴かせるというのは、またよく関係者の方々と話をしないといけないですが、「誰に聴いてもらいたいのか」というところと併せて、林修先生に何を望むか、この講演内容も含めて検討してもらい必要があるのかなと考えております。
教育総務課長	第9回定例教育委員会での委員からの質問について（回答） 前回12月の定例教育委員会において福里委員からご質問がございました「垂水小学校のミシンの件」について、改めて垂水小の永山教頭に確認をしたところ、「現在ミシンは18台ありますが、お尋ねのとおり、そのうち使用できるものは、1・2台です」とのことでした。 ミシンは、家庭科の教材備品となることから、学校教育課の配当予算となりますので、学校教育課に詳細について確認をしたところ、「修繕料の予算は確保しているものの、これまで予算執行はなく、新たな予算要求もこれまでない」とのことでした。

	垂水小学校には、「授業に支障がでているようであれば、必要に応じて修繕や購入するための予算要求をしていただくよう」改めてお願いしたところです。 それに対し、学校側からは「学校内で検討し、修繕や予算要求等の必要な処理を致します」との回答をいただきましたので、今後何らかの対応がなされものと考えています。
教育長	ミシンが18台うち、使えるのが1・2台というのはおかしくないですか。学習内容としてあるわけで、それを1・2台で賄えますか。
学校教育課長	賄えないです。今年は高校との交流授業として高校の方を使わせていただいているようですので、そこが根底にあるのではないかと考えております。
教育長	つまり、ミシン18台、すべて修理をする必要がないということですか。
学校教育課長	いいえ、学校で授業を行うためには、修理は必要です。 一般的には、学校の方で、例えば夏休みの教科部会の家庭科部の方で、「使えるのか」「使えないのか」、使えないとしたら、どこが問題あるのか、例えば糸の巻き取りのところなのか、針がそもそも折れて交換針がないのか、その辺をチェックして、それを基に教育委員会の方に修繕の依頼をする流れになっていますが、それがこちらの方に届いていなかったというところがあります。 そこは、今、教育総務課長からありましたとおり、早急に学校の方に点検をしてもらって、必要であればその修繕の依頼をあげてもらわないと、こちらの方が予算執行できないところです。 今年度については、先ほど申しましたとおり、垂水高校の方に子供たちが行って、高校生のお兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらいながら、というところがありましたことから、教育課程上はクリアしているところですけども、ただそれは手段ではないので、そこはきちっとしていきたいと思います。
教育長	小学校と垂水高校の交流はいいと思いますが、そこに立派な施設があるから、そこを使わせてもらってというのはいいと思うのですが、この交流は、毎年行っているわけではないので、18台を稼働できるようにしておくことが基本だと思います。 18台というのは、おそらく2人に1台ということになっていると思いますので、そこも含めて、いわゆる活動の度合いとその修理の必要性を課長からあったように学校の方から要求してもらうようにお願いします。 子供に不利益がないようにしてもらえたらなと思いますので、よろしくお願いします。 また、このような事例が他にもないのかも含めて、学校側に当たってみてください。
	総合教育会議の開催日程について（案内）

教育総務課長	例年1月に開催されている、市長と教育委員会との意見交換の場である「総合教育会議」の開催の日程についてですが、正式な通知については、事務局である企画政策課からあると思いますが、今回は市長の公務の都合により、2月13日木曜日、午前10時から第1研修室にて開催が予定されているようですので、日程調整方よろしくお願いします。 協議事項については、11月の第8回定例会でご説明申し上げました「第4期垂水市教育振興基本計画」についてで、現在、1月19日まで市民からの意見聴取、いわゆるパブリックコメントを実施中ですが、この計画は、令和2年の総合教育会議において、市長が定める施策の大綱、いわゆる「教育大綱」とすると決定されていることから、その新たな教育大綱を決定するための審議になろうかと考えています。
学校教育課長	中学校の部活動の地域移行について 今、全国的に部活動の地域移行の流れがありますけれども、本市においても一昨年度から市の推進協議会を立ち上げて、年に3回程度各競技団体の連盟の方に来ていただいて「地域の方に手伝ってもらえないだろうか」ということで、これまで話を行ってきたところです。 どこの市町村も、ものすごく人探しに苦労しているところですが、ありがたいことに本市は、昨年の段階で3つの部活動、「剣道」、「サッカー」、「バレーボール」について、手伝ってくれる方が手を挙げて指導を行っていただいているところです。 昨年度、3競技の指導者が見つかったところですが、それからなかなか進んでいけないという課題が出てきたことから、今年の2学期になって、「もっと広く公募をしましょう」ということで、市の広報誌の方に掲載をしたりしました。 そうしましたら、昨年12月の間に、3人の方が「お手伝いができる」と連絡をいただいて、同月に面談を行いました。 部活動としては、まず一番欲しかった「バトミントン」、「サッカー」、「吹奏楽」に応募がありました。 どの方に話をしても、ものすごく熱意があって、子育ても見通しがたったからということもあったり、それから鹿屋体育大学の学生もバトミントンで手伝ってくださるということでしたが、この学生は「将来的にはスポーツのインストラクター的なものになりたいんだ」とか、「バトミントンについては、中学校・高校と専門にやっていたが、大学に入ってみたらバトミントン部がないということで、今地域の方のスポーツクラブに入って活動しているが、こういう案内があったので興味をもって自分たちの後輩みたいな方たちと関わっていきたいんだ」というところで面談などを行ったところです。 この後、教育委員会としては、学校の方にその方々の紹介を行い、学校の方で練習計画とか、どんなふうに関わってほしいのか、という希望があると思いますので、そこでのマッチングを行って、早ければこの3学期の2月ぐらいから指導を行っていただければなと思っています。 こういう風にして何人かの方が手を挙げてくださったことは非常にありがたいことで、また来年度に繋がる取組だったと考えております。

学校教育課長	子供たちの体力の現状について 鹿児島県は保健体育課を中心に「体力アップ！チャレンジかごしま」のランキングを行っています。 何かと言いますと、子供たちがなかなか運動をしつがらない、外でなかなか遊びたがらないという傾向があることから、学校の中で体育であるとか、朝の活動であるとか、昼休みとかで、いろんな場を使つて、子供たち同士が体力づくりをするようなものをランキングという意識付けをさせて行わせるものがあります。 小学校の場合には、7種目8種目あり、1年間に前期と後期に分かれて、チャレンジしたらインターネット上で県教委に送り、県内のランキングがでくるシステムになっています。 前期のランキングについては今発表されていて、実は垂水市内の学校がいくつも入つており、びっくりしたところでした。 例えば小学校1年生では、「2人でさっさつ」という種目があります。これは、反復横跳びを1人でやるのではなくて、2人で向かい合つて手をつないで一緒にのタイミングで行うという、俊敏性はもちろんのこと、2人で息を合わせるというのがポイントですが、この種目に柊原小学校が県内で第4位、2年生も県内で第4位になっています。 そして、「馬跳びピョンピョンピョン」という、馬跳びをして何人先にいけるかという種目が、牛根小学校の1・2年生が第8位になっています。 それから、「長縄エイトマン」という長縄を八の字に回して、その中を抜けていく種目ですが、水之上小学校の2年生が第6位に、3年生では「一輪車でGO!」という種目で、松ヶ崎小学校1・2・3・年生が第4位になっています。 もう一つ、4年生で先ほど言いました「2人でさっさつ」が、柊原小が第4位に、新城小が第8位ということで、小規模校の子供たちが目標を持って頑張つてくれたかなと思つています。 小規模校の子供たちというのは、ドッチボールをしたりとか、みんなでサッカーをしたりとか、野球をしたりとか、なかなかしにくいので、2人とか3人とか、あるいは5人ぐらいいでもやれるような競技にチャレンジさせて、体を動かすことの楽しさを味わわせることは非常にありがたい取組だと感じているところです。 以上、紹介でした。
教育長	県内でも小規模校が非常にいいところにいる、これはありがたいことです。 一方、気になるのが垂水小学校とかどうなのですか。
学校教育課長	垂水小は取り組んでいるのですが、やはり人数が多いだけにラインキングになるとどうしても上位にいけないところが確かにあります。 私も県のランキングを見てみましたが、あまり大きな学校は入っていないようです。 小規模校から中規模校の学校が上位に来ているような感じがしております。

教育長	わかりました。かつて牛根小が2年連続県の優秀学校賞を取ったことがありました。 学校経営、要するに中核に「体力づくり」を入れておられて、とにかく遊びの中で楽しく取り入れながら、どんどんどんどんスキルアップ、レベルアップをしていく。 いろんなやり方がありますので、とってもいい取組だったです。うれしいニュースでした。ありがとうございます。
5 動議の討論等	
教育長	12月が1月ぐら이었다と思うが、ある市民の方から電話をいただいた。その内容というのは、「垂水中央中学校の周辺をちょうど登校の時刻に車で通るのだが、先生方が、なかなか黙礼であったり、あいさつをしてくれない。中にはしっかりとあいさつをしてくださる方もいらっしゃるが、子供にあいさつを指導する立場にある先生方がこれでいいのだろうか」という苦言をいただいたところである。 私も早速、教頭に電話し、徐々に改善が見られつつあるが、中にはなかなか気付かないのか、あいさつとか、黙礼とか、ないと由やに聞く。 そこで、昨日の始業式の前日に、校長に電話をし、最初に、このことを先生方に話をしていただくようお願いをしたところである。 そして、あいさつ運動は年間を通してというところで、改めてあいさつの意味・意義というところを先生方に話をし、しっかりと生徒にもあいさつの大切さを含めて指導していただくよう話をしたところで、校長からは「そのように指導いたしました」との返事は来ているところです。 その後、私に苦言を呈してくださった市民の方が、変化・変容を感じておられるのか楽しみにしているところです。1週間後、2週間後ぐらいででしょうか、「よくなりましたね」みたいなうれしい電話をいただければありがたいなと思うところです。 市民の方々が学校を注目していただいているというのは、ある意味うれしいことで、そのご指摘もありがたいなと私は受け止めました。 学校をあげて、改めて「あいさつのよさ」についてご指導いただければと思っています。 このことは、垂水中央中だけの問題だけではなく、小学校も含めてであり、垂水小学校の校長の顔が浮かびましたので、垂水小にもすぐに電話をいたしました。 今後もまた校長さん方と会う機会がありますので、このあいさつのことは、しっかりと伝えていくと改めて思うことでした。
明石委員	このあいさつの件は、実際にあいさつをされないのか、黙礼もされないのか、状況がわからないので、コメントに困るところですが、逆にした側からすると「してくれない」ということもあるのかもしれませんが、先生方はどんな感じだったのかお伺いしないとわからないところです。 ただ、朝は、私がいる頃からそうですが、送迎の車とか、安全面に気を配ることが先に立って、その登下校時になるべく車の通行がないほうがよ

	くて、スクールバスの運行の妨げにもなるので、そこら当たりもあるのかなと思ったところです。 あいさつ運動は、私の時もそうでしたが、校長自ら明るく、元気にあいさつをすると、先生方も子供たちも元気なあいさつをしてくれると思うところでした。 あと別件で、前に話をしましたが、「運動公園のゴミ」について、話をしてくださったのか分かりませんが、本当にきれいになっています。 寒さもあるのかもしれませんが、ウォーキングをされたりとか、子供たちも、それこそテニスコート側の駐車場に保護者が待っていたりするので、これからもきれいであってほしいです。
社会教育課長	その話については、作業員の方々も常日頃から清掃を行っているのですが、そういった話を聞くということで、担当係の課長補佐の方から、「まずは、しっかりと巡回点検をしてください」と伝えたところです。 また、ゴミは持ち帰りが基本ですから、「作業員が拾うことだけで済ますということは、おかしいのではないか」という考えから、「持ち込んだゴミは、自分たちで持ち帰る」ということを利用団体に推進するよう話をしているところです。
教育長	基本的に、「自分で持ち込んだゴミは、自分で持ち帰る」ということ、そして、気になるゴミは、気付いた職員がきれいにするということです。 そして、その前におっしゃったあいさつの件ですが、これはあくまでも比較論で、「数年前と比べた時に」とおっしゃった。 どうしても物事は比較論で言うことが多い、「かつてはよかったんだ、だけど今はこうなんだ」ということですが、今日の天気みたいに、おそらくこの3学期はよくなっていくと思っています。 だから、来週、また朝の様子を見に行こうと思っています。 こちらからあいさつをして、相手方から返してもうようにしたいと考えています。その方にも「あなたは自分からされますか」と聞いたところ、「いや、しない」と言うことでしたので、そうであれば「今度は逆に自分からしてみてください」と言ったところでした。 そして反応がなければ、「おかしいですね」ということも言いました。そうして徐々にあいさつのよさをお互い実感しながら、これがまた子供に波及していけばいいのかなと思っています。今後も粘り強くやっていければと思います。ありがとうございます。
学校教育課長	一昨日、始業式だったのですが、教育委員会の方も、また教育長からも「各学校の朝の登校状況とか、地域の方々の学校への協力状況がどうなのだろうか」というところがありましたので、指導主事3人が中央エリア、南部エリア、北部エリアと別れて、朝様子を見させていたいたところでした。 大変、寒い朝だったのですが、どこの学校も、地域の方が、ものすごく立っていらっしゃって、あいさつ運動と交通安全指導も兼ねて協力をしてくだっておられました。 私は中央エリアということで、垂水小、水之上小、垂水中央中を廻っていきましたけれども、特に垂水小校区は、道路筋がいっぱいあって小さな

	道路のところでも、信号のない横断歩道があるところでも立って手伝っている様子が見られました。 また、議員の方も立っておられる様子が見られて、非常にありがたいことだなと思いました。 子供たちの様子を見てみますと、寒いということもあったのか、声が聞こえるというところまでは確認ができませんでしたが、地域の方が子供たちを育てるために、お手伝いをさせていただいて子供たちもそのことに感謝をしてくれているのかなと思いかたでした。 水之上小は、昔からおもしろいあいさつをしていて、校長先生が正門に立っておられなくて、どこにいるのかというと校長室にいて、子供たちが朝、登校したら靴を履き替えて、教室にいく前に校長室に寄って、ドアをトントンとして、「校長先生、おはようございます」というようなあいさつの仕方を、学校としても伝統としているようです。なるほどそういう工夫もあるのだなと思いかたでした。 また、ほかの指導主事に聞きますと、北部では、例えば、松ヶ崎小は、校長先生が学校を中心として、右側に、南と北側に歩いてくる道路があるのですが、片側の方を地域の方が、もう一方の方を校長先生が先導をされて、そしてあいさつを兼ねて交通安全指導をされて集団登校している様子が見られているようでした。 南部の方も、新城小とか校長先生が朝掃除をしながら、あいさつをしている様子が見られたということでございました。
教育長	今、課長から報告があったように、地域の方の力というのは本当に大きいです。 まさに地域に支えられて、そこから子供たちもまた見守られて、そしてあいさつもまた教わっていくみたいな、垂水は本当に暖かい地域だと思います。ありがたいことです。
社会教育課長	あいさつ運動は社会教育課が所管ですが、今、学校教育課長が言っていたように学校の校長も出て、我々の地域の方々も出て立哨をされておりますが、私も毎朝、垂水小の前を通勤する中で感じることは、親も考えていただきたいというのが私の考えです。 どういうことかと言いますと、送り迎えの車が増えているのです。 垂水小は、時間によっては、車が正門や通用門の先に並んだり、体育館の横に並んだりという光景が見られます。 車が止まっていれば、当然、子供たちは反対側に渡って歩かなければいけなくなります。 その場面、その箇所については、地域の方々では対応できないことだと思っています。 送迎については、親の考えですので、送迎をする人で、そこは見守っていただかなければならない、そこは学校ではなくて、PTAで対応しなくてはならないのかなと思っています。 PTA、市P連の関係も社会教育課が担当ですから、会議の中で言うべきかな、とも考えております。 特に雨が降る日です。車が渋滞することから送迎の関係も考えていくべきだと思っています。

教育長	そのことは随分以前から「どうにかならないか」と話題にはなっています。 それが保護者の都合でもって、というところが大きいのでしょうかけれども。
社会教育課長	ルールなど作っていかないと、これまで、たまたま事故が起きていないだけで、どこかで大きな事故が起こるということも考えられます。
教育長	中学校も同様の状況のようですが、このことは、学校も繰り返し指導はしていて、「なるべく子供を自力で登校させてください」と、これは健康づくり、体力づくりも兼ねてということなのですけど、なかなか浸透していかないというところですよ。 しかし、今言われたとおり、事故が起これば悲惨なことです、また改めて、あるいは繰り返し、このことはPTAにお伝えしないといけない中身だと思っています。 また学校教育課も学校と連携していくということをお願いします。
6 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
明石委員	年末の桜島には閉口したところですけども、それでも新しい年が穏やかに始まりました。垂水中央中の3年生みんなに希望の春が訪れるよう心から願っています。 5日の「二十歳のつどい」に参加いたしました。私が垂水中央中最後の年に1年生だった子供たちです。あれから7年、様子を見ていますと話を聴く態度、お祝いの言葉に対する返礼とか、一人ひとりの成長を、とてもうれしく思うことでした。 その姿をみて思ったところですが、私がふるさと垂水を離れ、34年ぶりに帰ってきたのが垂水中央中学校でした。 着任して間もないころ、校長室で夜、仕事をしていると、ウォーキングをしている途中で、同級生の女性2人が学校に寄ってきてくれて、「明石くん、まだ仕事の、体を壊さないでね」と声をかけてくれました。ずっと先生、先生と呼ばれているので、「明石くん」と呼ばれるのが新鮮で、とてもうれしかったことを覚えていて、今も思っています。同級生って、やっぱりいいものだなあと実感しました。 また、中央中に入学してくれた生徒で、状況によってはヘリコプターで病院に搬送する必要がある子供さんがいました。当時、同級生が消防次長でしたので相談すると、「わかった、連絡をもらったら、ドクターヘリは、中央中の校庭に下すよう手配するから」と言ってくれて、こんな心強くて、そして、ありがたいなことでした。 さらに、保護者にも、市役所にも、同級生がいてくれて、仕事をするうえで、本当に支えてもらいましたし、たくさん助けてもらいました。

葛迫委員	今回、二十歳を迎えた子供たちも「垂水」という絆で結ばれ、将来にわたって、かけがえのない友達であってほしいと、つどいに参加しながら願うことでした。 新年早々の大きな行事の運営に当たっていただいた社会教育課の皆様を中心に、出席された両課長さん方、大変ありがたいし、本当にお疲れ様でしたという気持ちです。いいつどいが行われたなと思っております。 以上です。 私は、第10回和田英作・香苗記念絵画コンクールが12月8日から15日の8日間、開催されましたけれども、そのことについて報告させていただきたいと思います。 まず、11月1日から11月17日までの作品の搬入から始まりました。 本年度から本コンクールは一般部門を「和田英作部門」、ジュニア部門を「和田香苗部門」と各部門を改名し、出品者や来場者にわかりやすく、少し把握しやすい内容に変更されました。 出品点数については、「和田英作部門」が73点、「和田香苗部門」が302点の合計375点、その中には北海道、茨城、静岡、京都といった都市からの出品もあり、うれしく思ったところです。 審査については、19日の午前中が「和田英作部門」、73点の中から入選、入賞、招待者の68点を選出しました。 午後からの「和田香苗部門」は、302点の中から、31点の入賞作品を選出し、学校賞には協和小学校が選ばれました。 その後、審査員による上位入賞者5名の講評を、五反田邦夫先生には英作部門、穴野寛先生には香苗部門を執筆いただきました。 また、今回のコンクールは、10回記念ということ、そして和田英作生誕150周年ということで、様々な内容が組み込まれています。 各賞の中には、昨年、一昨年にご逝去され、このコンクールに非常にご協力いただいていた審査員の向吉文男先生、協賛をいただいていた陶芸家の桑原武満先生、このお二人の功績を称えるということもあって「向吉文男賞」、「桑原武満賞」を組み込むこととしました。 12月6日には、文化会館エントランスロビー・ホワイエにて展示作業、そして8日の日曜日には表彰式があり、昨年度まではジュニア部門、一般部門と時間をずらしての別々の表彰式を行ったのですが、今年、本年度からは「和田英作部門」「和田香苗部門」を同時進行し、スムーズに賑やかに進められ、1時間半ほどで表彰式は終了しました。 和田英作賞に輝いた宮崎市の上田雄二さんは、「質感の表現に苦労した」と話をされておりましたが、確かな技術と高い構合力に審査員全員が和田英作賞の最高賞を、と推しての受賞でした。 この作品には、わずかに若葉色が見えていましたが、玉ねぎ全体の赤茶色が玉ねぎに見え隠れする若葉色が非常に未来を感じる、そして未知を感じると私は感じ取ったところです。 和田香苗部門には5点の和田香苗賞受賞作品が選ばれましたが、どの作品も主題がはっきりしている。自分が表現したいことをしっかりと描かれていると感じ取ったところです。 その後は、ギャラリートークを1時間ほど組み込みましたが、鹿児島市
------	--

	内や、薩摩川内といった遠方からの出品者も来られ、また多くの出品者や来場者は、このギャラリートークを楽しみにしてきたのだと喜んでいました。大いに盛り上がった表彰式、ギャラリートークでした。 関係者職員には、朝早くから準備に大変だったと思います。本当にご苦労様でした。15日は搬出作業が進められ、第10回和田英作・香苗絵画コンクールが無事に終了したことをご報告いたします。 以上です。
教育長	ギャラリートークを先生の一方的なトークではなくて、出品された方々からの質問等を行う今回双方向で行ったということでしたけれども、いかがでしたか。
葛迫委員	結局、観る側というのは、自分だけしか分からない感じ方とか、しゃべれないのですが、描いた方の思いとか、熱意であったりとか、を言ってもらうことで、絵というのは、美術、絵画という造形作品というのは、作家自体が表現するものもそうであるが、観る側の思いというのを考えるという方が、いろいろな視点で物事も考えられ、見えるし、作る人の視点というのが面白いのかなと思っているところです。 そういうことで、両方の考えを示しながら聞いてもらえる人にも味わってもらいたいなということでの基本的な思いのギャラリートークにしたいなと思ったところでした。
教育長	今回は、すべての作品にコメントが入った。あれも非常に好評だったと聞いている。今までにないと同った。
葛迫委員	非常に時間がかかる、3日ぐらいかかったが、みんなが喜んでもらえるのであれば今後も続けたいなと思っているところです。 ただ1人でするのも大変だし、自分の気持ちだけをそこに書き込むのではなくて、審査員は3人おられるので、2人の先生方にも1週間ぐらいはかかると思いますが、上位5人の受賞者の方にはお願いしたところです。
教育長	なにか学校の先生と子供の関係性に似たところがあるのではないのでしょうか。子供が何か発信したら、それに先生がコメントを返す、これ非常に子供にとっては書いたことへの意欲に繋がるわけで、そういう意味では、きっと出品された方の思いを汲みあげる、うれしくなるようなコメントだったのだろーと思います。 今回の第10回にける思いというのは、社会教育課長が「もうちょっとシンプルにできないのかな」というところからの発想でしたけれども、非常に整理してもらったし、私が一番よかったなと思うところは、受賞者に焦点を当てたということがよかった。 主役はあくまでも受賞者、というところが際立った絵画コンクールでした。そして、さらにうれしかったのは作品のレベルが高いということを葛迫委員から言ってもらったことです。 子供も大人も作品のレベルが高い、上がってきている。ということは、コンクール、この作品展の質が上がったということで、来年以降がますます楽しみなものになったなと思うところでした。

田之上委員	ありがとうございました。 私も1月5日は、二十歳のつどいに参加させていただきました。晴れ着に身を包んで二十歳を迎えられた皆さんは、とても晴れやかな感じがしました。 毎年思うのですが、人前で自分の意見を述べるというのは、大人でも、とても難しいことですが、はたちの主張をしてくれた代表3名の方は、堂々としていて、とても立派な主張だと思いました。また進行を務めてくれた方をはじめ、会の開催に向けて尽力してくれた実行委員会の皆さんを中心に、みんなで作り上げたとてもすてきなつどいでしたというのが感想です。 昨日は、中央中で朝のあいさつ運動に参加しました。寒い朝でしたが、生徒の皆さんは元気に登校してきました。 先ほども出た話題でしたけれども「昨日はどうだったのかな」と私も思い返してみたのですが、先生方はどちらかというと子供たちを中心に見てくださるので、地域の方やすれちがう方へのあいさつがあれなのかなと思いました。子供の方を向いていると、先生方は、子供へは「昨日どうだった」「あれはどうだった」というような声かけをよくしてくださっています。 子供と先生の関係というのは、すごくいいのではないのかなと後から思いました。沢山の先生方が正門に出てこられているので、そのことはいいような感じがしました。駐車場から正門までの短い距離ですけれども、そこで出会われた地域の方なのでしょうけれども、できたら先生方にもしていただけたらいいのかなと思いました。 自分たちも、先生方も、子供にも、いえと思うのですが、あいさつと言っても頭だけ下げていく人がいたり、笑顔で大きな声で「おはようございます!」という方もいらっしゃるし、あちこちであいさつ運動をしてくださる人に、こっちにもあっちにもする先生や子供さんもいらっしゃる、本当にいろんなパターンがあるのですけれども、たぶん声をかけてもらった方はあいさつをしなければと十分に持っていると思います。それをどうやって表現をするかにちょっと違いがあるのかなと思ったりしているところでした。 3年生はいよいよ受験シーズンですけれども、体調に気を付けて本番を迎えてほしいなと思います。 児童クラブでは、タブレットの使用については、私たちも壊したりとかすると怖いので、これまでは、「使ってはいけません」ということをしてきました。 しかし、Wi-Fiが入ったりして、子供たちの中にはタブレットで宿題があるとか、ドリルをするという子もいることから、この冬休みから、もちろん自己責任ですけれども「使ってもいいよ」ということにしました。 3、4、5名ぐらいなのですが、3・4年生ぐらいの子供たちですけれども、持ってきてドリルをしたり、タイピングの練習をしたりする子がいました。変な使い方ではなくて、きちんと使っているなという印象を受けました。 以上です。
--------------	--

教育長	これまでストップをされていたのは、そこで壊したりとかという理由ですか。
田之上委員	私たちの対応ができないというか、ちょっと30人から40人いる中で、使っている子だけを見ることもできないし、「これわからない」と言われても「私たちも分からないし」というところもあって、「ちょっと児童クラブではね」ということにしていたのですけれども、やっぱり文房具として使っていけないといけない、また課題が出てくるならば、学習時間として使うのであれば「いいのではないのかな」ということで変更したところでした。
教育長	「あいさつ」のことも出ました。「あいさつ」は、一つの個性でもあります。「明るく」「元気に」「大きな声で」というのが、理想なのでしょうけれども、どうしてもシャイな子はいるでしょうし、そのときの心のありようとかもありますので、その子なりの精一杯のあいさつがなされればいいのかなと思います。 むしろ、「大人の方からのあいさつが大事なのかな」とその度に本当に思います。「子供にきなさい」ではなくて、「大人からしましょう」というようなこともありなのかなと私は思います。
福里委員	2学期慌ただしかったのですが、無事に子供たちも終業式を迎えました。息子と娘のクラスでは、終業式前にインフルエンザがすごく流行り、娘のクラスでは終業式は6人だけが登校で、息子のクラスでも10何人休んだりして、ほとんどの子がインフルエンザにかかったのではないかなというぐらゐすごく流行りました。終業式はすごく寂しい終業式となりましたが、無事に終えることができました。 テレビなどでもインフルエンザのことが毎日のように話題に挙げられています、手洗いうがいなど基本的な感染症対策を行って乗り切りたいと思います。 いよいよ来週、息子が高校受験を控えているので、なんとか親子で乗り切りたいと思っています。 娘も小学校生活が残りあと3か月ですが、息子と娘の間で1回も経験したことのなかったドッチボール大会に、4年生以上で出れるという機会を4年生の先生が希望者を募ってくださって、すごく楽しみにしているので思い出づくりとして楽しんでいけるといいなと思っています。 以上です。
教育長	そのドッチボール大会は激しいスポーツですけれども、すごく頭を使って、作戦を練りながら、試合を組み立てていくという、すごく子供たちにもいい経験だと思います。 体力だけでなく作戦をしっかりと考えながらというすばらしいスポーツで、いい経験だと思いますので、ぜひチャレンジさせてください。 その結果、まとまりが出てきますので、すごくいいと思います。 ありがとうございます。

では、最後に私の方から、年明けうれしかったのが箱根駅伝です。青山学院大学が2連覇しました。なぜかと言いますと、社会教育課長が力をいれている3月3日に原監督の講演会が開催されます。

原監督もそれまでの大学駅伝では敗れていましたが、箱根駅伝の戦い方は見事でした。原監督も持っていますけど社会教育課長も持っています。

3月3日は、多くの方々が講演会にお見えになるだろうなと思っています。

ぜひ教育委員の方々も観賞していただければありがたいなと思います。

さて、この冬の寒さ、この時期こんなに寒かったでしょうか。何か違いますよね。とすると、これから寒さが本格化していく中で、どこまで気温が下がっていくのか、何か地球温暖化の影響というのは大きなと感じるところです。

そういう中で、子供は元気です。登校の様子を見ていても、あいさつにしても、子供に随分励まされる場面というのは、いっぱいあります。

3学期がスタートいたしました。先ほど来でていますインフルエンザも大きく出てきてはいませんが、ある一定程度出てきていますので、くれぐれも気を付けながら感染対策を行っていただいて、年度を締めくくるいい学期に、子供も、先生も、親までしていきたいと思っています。

この1か月を振り返ってみたいと思います。

去年の12月に第2回の青少年合同会議がございました。

冬休み子供たちが、安全に、楽しく、また普段できない経験をしてくれればいいですよという話をしましたところでは。

その中で、ある提案をいただいたところでは。

何かと言いますと、危険箇所調査、安全点検の必要性をおっしゃいました。ブロック塀の倒壊による死亡事故が確か関西でしたか、何年か前にありましたが、3学期早々ですけれども、点検も含めて安全確保についても、また学校に指導してまいりたいと考えております。

警察の方の情報もあつたのですが、「現在のところ大きな問題はないけれども、ちょこちょこはあります。その度に指導はしております」というような報告をいただいたところでは。

特に、中学校にはお世話になっておりますので学期の終わり、あるいは学期のスタートには必ず警察に行ってお願いをしたり、お礼をいったり、ということはしてくださいと言っております。

警察との連携というのは、非常に必要でございますので、ここも大事にしていきたいなと思っております。

ところで先ほど来でしております「二十歳のつどい」ですが、中央中の生徒は、95名在籍しておりましたが、そのうち今回参加した方は88名、なんと88%、9割の子供たちがこの二十歳のつどいを楽しみにしている、帰ってきた、地元にいる子供もいるのかもしれませんが、うれしいですね。それだけ集まるということ自体が私はありがたいなと思っております。

それと実行委員の皆さんの苦労は間近で見えておりましたけれども、ビデオの制作であつたりとか、出席等の連絡であつたりとか、こまめにやっていました。

その中で、「今風だな」と思ったのが、スマホを使って、いわゆる対面で集まらなくてもいいわけです。

それぞれいる場所が違いますので、スマホで顔を見ながら、話をしながら、情報共有をしたりして、さすがに最後の詰めのところは、集まってしっかりと詰めをしておりました。

その中で色々感じたことなのですけども、まず、「はたちの主張」は、先ほど来、出ておりますとおり、3人がしっかりした「思い」「考え」を持っている。これが垂水の子供たちの良さでもあります。

去年は、びっくりするような独創的な姿をした子がおりましたけれども、考え方とか一番しっかりとしておりました。あれには感動いたしました。

毎年のことながら、本当に「はたちの主張」、子供たちには感心します。最後のコメントでも申しましたけれども、垂水の宝であり、まさに誇りでもあります。

そして、ビデオ上映、これについては、応援メッセージはよかったです。

当時の校長・担任が登場したり、そして、フェンシング関係、尾崎選手、江村選手、バレーボールの坂元選手、ありがたいです。

そしてまた実行委員の方々がつくった振り返りの動画がありました。

あれが私と社会教育課長と語ったのですが、求めていることはこれだったのかなと、時代の振り返りという点ではよかったのですが、実行委員の思いがこもってよかったのですが、当事者、「二十歳のつどい」で集まったあの方々が求めている、あるいはその後ろに座っておられる保護者が求めているのは、実は子供たちの成長ではなかったのかなと、例えば幼稚園時代はこうだったよね、小学校時代はこういった行事があったよね、このような表情だったよね、中学校時代はこんなイベントもあったよね、そこでまた一段と成長したよね、というそういうアルバムの的なものがあればよかったのかなと感じたところです。

年によってまた違います。実行委員の方々の思いというのがありますので、しっかりとアルバムの中から写真を抜き出して、そして順序を考えながら、効果性を考えながら、うまく作り出す実行委員の方もおられれば、そこに動画を入れたりして、というのあれば、今年のようなやり方も一方ではあるのだなと思いつつながら、どちらもいいのですが、今回求めているのは、少しでも振り返りをできるものがあればと思いかたでした。

それと垂水中央中学校の校歌を聞く度に、明石委員もおっしゃるのですけれども、すばらしい校歌ですよ。

中学校時代あんなに歌っていた子供たちが、なんで声がでないものか、私は舞台裏で大きな声で歌っていました。

おそらく明石委員も歌っていたと思いますが、なかなか二十歳になると声がでないのですかね、

最後になりますけれども、今年は「巳年」というところで、脱皮を繰り返し成長する年だと言われております。

教育委員会としましては、新しい自分に生まれ変わる年、幸せがみんなで囲む年と位置付けて、そのことが組織の活性化に繋がるといいなという話をしたところでした。

来週から私立高校の受験が始まります。まずは「受験生頑張れ！」というところで、応援メッセージを送りたいなと思います。

併せて、鹿児島学力学習状況調査も始まります。しっかりと結果を残してほしいなとも思います。

以上でございます。

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	12月3日から1月10日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、1月11日から2月7日までの行事予定についてお知らせした。
学校教育課長	小学校の英検について 1月25日、土曜日に小学校の英検を行います。昨年までは、中学校のみ英検補助を行っており、約50%の子供たちがチャレンジをしています。今年度から小学生も補助をということで取り組み始めました。 4月からその手続きをしているのですが、意外と少なく、というのは、中学校の場合は、学校が英検会場になることから申し込みやすいのですが、小学校の場合は、英語塾に行ったり、英語教室に行って受験し、それに補助をするということですので、やっぱり会場が必要なのかなと、昨年の中旬ぐらい考え、どうにか会場を市民館にセッティングできないかと色々調べてきました。 結論としては、準会場としてできるということになりまして、今回の25日に行うことになりました。 残念ながら参加者は、まだ5人と少ないのですが、取り掛かりとしては非常に良かったのかなと思っています。
学校教育課長	生徒指導等について 2学期末の不登校の状況がまとまりましたので、お伝えしたいと思います。小学生が6名、中学生が17名です。昨年度、年間トータルとして小学生が10名、中学校が21名ということでしたので、ここには多分いかないだろうという見通しです。 今年、非常に力を入れているのが中学校の校内支援センターを開設しました。「どうかな」と思いながらスタートしたわけですが、非常にいいなと思っています。というのは、学校には来れるけれども、教室に入れない子供たちが今までは、保健室で過ごしたり、あるいはそもそも居場所がないから学校に来れなかったりしていたのですが、その子がスクールソーシャルワーカーの方の声かけなどによって、とりあえず学校の門をくぐるできるようになりました。 そしてそこで過ごした。その中でその支援員の先生と話をしたり、一緒に少し学んだりすることで、教室復帰ができた子供たちが複数名おります。これは非常に大きな成果かなと思っています。 一方で、課題として残ったのは、中学校の不登校については垂水小出身のお子さんは意外と少ないのですが、どちらかというと小規模校からくるお子さん方の不登校が多いという課題がございます。 去年も今年もそうでしたので、そう考えた時に小学校からの仲間づくりとか、顔合わせというのをいかにしていくかというのが1つのキーワードになります。 もう一つは、こういう学校に来れない状況になったときに、その子たちにどうやって学習保障をしていくか、というのが2つ目のキーワードになってきます。

7 閉 会	1つ目のキーワードでは、小学校の5・6年生を集めて、このアクティビティをしながら、ほかの学校の子供たちと交わるような活動を昨年度から組んでおります。 今年2回目を12月に行ったところですが、来年度は1学期の終わりに、SOSの出し方教室がありますので、その同日に行いたいと思っております。 これは、これから後、数年間はずっと行って、そして子供たちが中学校に上がったときの仲間づくりの様子に、研究に、生かしていきたいなと思っています。 2つ目の課題である遠くの方から学校に通ってくるお子さんの不登校については、今年、校内教育支援センターを作って支援員を配置したのですが、そのサテライト型の教室をほかの地区にも設置できないかなと現在、検討中であります。
--------------	---